



Around the World with ALTs !

～津市 ALT の地域交流～

津市教育委員会 教育研究支援課

地域への想い

「私たちが津市民だ。」「そして、私たちは津市で働く公務員だ。」「津市一大イベントに花を添えたい。」「何か津市全体に貢献できることはないかな。」「小中学校の児童生徒も楽しみにしている津まつり、私たちが学校での外国語活動や英語授業とは違う、英語を使った何かが出来ないかな。」そんな熱い思いが結実した瞬間でした。8月に来日したばかりの JET 青年が6人もいますが、先輩 JET の ALT (外国語指導助手) からお祭りの楽しさや地域と繋がることで日本での生活がもっと意義深くなるのが伝わり、初めてながらもお祭りとはどういうものなのか、どういった事が行われるのか、色々と先輩に教わりながら、3 か月かけて準備をしてきました。津まつり 2 日間は、彼らにとって日本文化を学び、地域との繋がりを肌で感じる、熱い熱い時間になったことでしょう。

津まつり!!

10月8日(土)と9日(日)は、津市民が楽しみにしている「津まつり」でした。今回の津まつりの目玉は、ディズニーシー15周年のパレード、「とと姉ちゃん」に出演していた女優 相楽樹さんが乗船する安濃津丸、全国のグループが集まるよさこいフェスティバルです。津市役所前の公園には、この一大イベントを盛り上げるために大きなステージが設営され、市役所周辺の道路は歩行者天国となって、たくさんの屋台が出店されます。

8日(土)、ALT 達は夕方に集まってきました。これまで練習してきた踊りを「市民総踊り」で披露するためです。この日のために作ったお揃いの教育委員会 T シャツを着て、学校でのレッスンの後に集まって練習した「津音頭」「高虎音頭」「津のまち音頭」の成果を市民のみなさんに見ていただきました。「津市の外国語指導助手のみなさんです！」と紹介していただき、大きな拍手

をいただきました。

9日(日)は、いよいよブースの出店をする日です。8時に集合の予定でしたが、みんな初めてのことに緊張を隠せず、30分前には集合していました。学校から借りてきたテントを自分たちで組み立て、机やイスを搬入しました。私たち教育委員会の英語担当チームは、ALTの動きを見つめるだけです。初めての取組である津まつりでのブース運営を自分たちの力で成し遂げたいのだ、という強い気持ちがうかがえました。雨が少し降り始め風も強く、あまり良いコンディションでのスタートではありませんでしたが、彼らの熱い気持ちがそんな悪条件を吹き飛ばしてしまったのでしょうか？昼前には晴れ上がり、良い環境でブース運営ができそうだと期待が膨らみました。



英語で話そう!遊ぼう!

今回のブースでは、英語で市民のみなさんや子ども達と交流することを目的とした「クイズ」「フェイスペインティング」がメインイベントです。ALTが自分たちで考え、準備しました。テント内は2つのセクションに分かれています。クイズセクションとフェイスペインティングセクションです。どちらも訪れてくれた人が ALT と英語で話をしながら進めていけるように工夫さ



れています。

「クイズセクション」では、ALT20名の出身国に関するクイズを視覚的に分かりやすいように写真や絵を入れて、展示しました。カナダ出身でメキシコにルーツを持つ Juan Lopez のクイズは「メキシコで人気のある飲み物は？コーラ or ヤクルト？」。オーストラリア出身の Christie McIntosh のクイズは「MILO は日本の飲み物？それともオーストラリアの飲み物？」。子どもたちが楽しく答えを考えることが出来るよう問題を作ってくれました。

「フェイスペインティングセクション」では、顔料の入ったペンやマジック、鏡などが準備しており、リクエストに応じて国旗を顔にペイントするというものです。イギリス出身の Jessica Asai-Lawrence、オーストラリア出身の Charlotte Beardmore、アメリカ出身の Emily Yandel が担当しました。

ほかにもたくさんの仕掛けを準備しました。ブースの入り口で受付をすると、カナダ出身の Sasha Waters からスタンプラリーのカードをもらい、それぞれのセクションを終了するとスタンプを押してもらえるようになっていました。まずは「クイズセクション」。単にクイズに答えてもらうのではなく、磁石のついた釣り竿でクリップのついた魚を釣る魚釣りゲームを楽しみます。釣った魚の裏には国旗と国名が書かれています。アメリカ出身の Chad McIvor の発案でした。そこで、アメリカ出身で日本にもルーツを持つ Brandon Matsumoto が、釣った魚の国に関するクイズを出します。次は「How many?クイズ」です。ビンの中にたくさん入っているビー玉の個数を英語で当てます。「How many marbles are there in this jar?」難しい文ですが、アメリカ出身の Curtis Yaggi はゆっくりはっきりユーモアを交えて質問してくれるので、分からない子どもはいません。「One hundred!」「Three!」などという声が飛び交いました。

「フェイスペインティングセクション」に移ると、ALT がどの国旗を描いてほしいか質問します。一番人気は何故か日本の国旗！アメリカの国旗やオーストラリアの国旗は描くのが難しいにもかかわらず、ALT は自分の国の国旗をリクエストされると一生懸命描いて子供たちから喜ばれていました。

すべてのスタンプを押し終わるとスタンプラリーが終

了。カードを出口に持って行くと、アメリカ出身の Christian Philbrook が参加賞を渡していました。

津まつりを終えて

計 395 名の方がブースを訪れてくれました。自分の所属校から児童や生徒がやってくると、ALT 達は満面の笑みで迎えていました。彼らの抑えきれない興奮が想像できるでしょうか？子供たちも毎週授業を受けているのに、ずっと会っていなかったかのように「まつりの会場で探してやっと見つけたよ！」と ALT に駆け寄ってきました。お昼を過ぎるとテントの中は立錐の余地もないほど子供たちで溢れかえっていました。テントの前はクイズやフェイスペインティングを楽しむ子供たちを微笑ましい表情で見つめる保護者の方々でいっぱいでした。



受付のテーブルに ALT の写真と自己紹介カード、どの学校で教えているか、という情報を掲示しておきました。通りかかったたくさんの市民の方々からは「これが津市で働いている英語の先生？」「私は〇〇先生に習ったけれど、もういらっしやらないのかしら？」「うちの子はこの先生に教わっているのか。」と色々なコメントをいただきました。津まつりに参加しなければ会えなかった市民のみなさん、地域のみなさんともっと繋がりたいという ALT の想いがなければ生まれなかった機会だったのです。片付けの後、全員で成功を喜び、労をねぎらいました。「来年はこうしよう！」「今度はここを工夫しよう！」終わったばかりなのに、早くも来年の話をする ALT たち。少しずつ、でも確実に、ひとつの学校の ALT から地域の、そして津市の ALT へと生まれ変わる瞬間でした。